

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	12-074	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol consumption and mortality in individuals with diabetes mellitus. 糖尿病患者におけるアルコール消費と死亡率		
<b>執筆者</b>		
Sluik D, Boeing H, Bergmann MM, Schütze M, Teucher B, Kaaks R, et al.		
<b>掲載誌</b>		
Br J Nutr. 2012 Oct;108(7):1307-15		
<b>キーワード</b>		
糖尿病患者、アルコール消費、飲酒歴、死亡リスク		
<b>要旨</b>		
<b>目的：</b> 先行研究において中程度のアルコール摂取は糖尿病患者における低い CVD リスクと早産死亡率と関連があることが示唆されてきた。しかしながらこれまでアルコール摂取歴についてはほとんど考慮されることはなかった。過去のアルコール摂取歴を加味した上で糖尿病患者の男女における現在のアルコール消費と死亡率の関連を調査する。		
<b>方法：</b> EPIC コホート研究において 4,797 名の被験者が糖尿病を罹患していると診断された。男性と女性のそれぞれにおいてベースライン時と過去のアルコール消費に関して層別化した。アルコール消費が 1 日 0g から 1 日 6g までの軽度アルコール消費の集団を基準として、全死亡に対するハザード比と 95%信頼区間は多変数コックス回帰モデルを用いて算出した。		
<b>結果：</b> 軽度アルコール消費の集団と比較して、1 日 6g 以上のアルコール消費と全死亡との関連は確認できなかった。アルコール消費 1 日 6g から 1 日 12g までの集団においてハザード比は男性で 0.89 (95 %信頼区間は 0.61-1.30)、女性では 0.86 (95 %信頼区間は 0.46-1.60) であった。飲酒歴に対する調整を行なったがハザード比などの算出値は変わらなかった。ベースラインで禁酒していると申告した被験者においてアルコール消費量が少ない被験者よりも全死亡率が相対的に増加し、ハザード比は男性で 1.52 (95 %信頼区間 0.99-2.35)、女性で 1.81 (95 %信頼区間 1.04-3.17) だった。本研究では糖尿病患者において、現在のアルコール消費 1 日 6g 以上と全死亡リスクの関連は軽度のアルコール消費と比較して認められなかった。		
<b>結論：</b> アルコール消費のない被験者において、死亡リスクは現在の禁酒よりもむしろ過去のアルコール消費に影響を受ける。		